

## 入門助成団体に対するフォローアップ調査について(平成 29 年度)

### I 経緯と目的

地球環境基金助成メニューの一つである入門助成(現はじめる助成)は、「助成期間で得られた知識・経験を用いて、将来は一般助成(現ひろげる助成)の対象になること」を期待して実施しているものである。

平成 28 年度の入門助成団体(34 団体)が本年度採択された割合は 56%であり、前回の調査(40%)と比べて採択率は上がったといえる。採択された 19 団体の助成メニューは以下の通りである。

#### 平成 28 年度入門助成団体の本年度の助成メニューと団体数

ひろげる助成	1 団体
つづける助成	17 団体 (辞退した 1 団体含む)
LOVE BLUE 助成	1 団体

ひろげる助成より新設されたつづける助成で応募した団体の方が圧倒的に多かったのは、つづける助成の目的や助成対象活動などが団体のニーズに合っていたからと考えられる。

次に、平成 28 年度の入門助成を受けた 34 団体のうち、平成 29 年度の助成団体として採択された 19 団体と、応募したが不採択となった 8 団体を除く 7 団体を対象とし、助成を要望しなかった理由などをアンケート調査票で取りまとめた。

以下の通り、調査対象とした 7 団体のすべてから調査票を回収できた。(表 1)

表 1 調査団体数 及び 回収団体数

調査団体数	回収団体数	回収率
7	7	100%

### II 助成を受けて行った活動について

#### 1) 活動の継続実施の有無

「助成活動は、継続して実施していますか」という質問に対し、すべての団体が「継続している」と回答したことは良かった。(表 2)

表 2 活動の継続実施の有無

区 分	対象団体数 7 件	
	件 数	構成比
a. 継続している	7	100%
b. 継続していない	0	0%

#### 2) 助成終了後の現在の財源について

活動を継続している7団体において、助成活動終了後の現在の主な財源は、以下の通りであった。  
(表3)

表3 助成終了後の現在の主な財源について(複数回答可)

回答項目	対象団体数 7件	
	件数	対象団体数 に対する率
a. 国の補助金	0	0.0%
b. 地球環境基金	0	0.0%
c. 民間財団等の助成金	3	42.9%
d. 支援金	2	28.6%
e. 会費	5	71.4%
f. 参加費	4	57.1%
g. その他	4	57.1%

また、「その他」と回答した団体から、以下の通り具体的な回答が得られた。(複数回答可)

- ・事業収入(受託事業含む) 2件
- ・自治体の助成金 2件

複数回答ができるため、最も多い回答は「会費」(5件、71.4%)であった。助成金と回答した団体も5件あった。一般助成の団体と比べて、団体の規模が小さいことから、事業収入を主たる財源とする団体は少なかった。

### 3)平成29年度の助成を要望しなかった理由について

「平成29年度の地球環境基金の助成を要望しなかった理由について、以下の回答が得られた。(表4)

表4 平成 29 年度の助成を要望しなかった理由について(複数回答可)

回 答 項 目	対象団体数 7 件	
	件数	対象団体数 に対する率
a. 活動の目的を達成した。	0	0.0%
b. 団体の活動を休止または団体を解散した。	0	0.0%
c. 平成 28 年度と活動内容が重複するため申請できなかった。	1	14.3%
d. 助成の申請手続き・精算が複雑すぎる。	3	42.9%
e. 助成を受けるための資格要件が乏しい。	0	0.0%
f. 助成制度が要望に合わない。(助成金の使途制限等)	3	42.9%
g. その他	5	71.4%

また、「その他」と回答した団体から、以下の通り回答が得られた。(複数回答可)

- ・基幹事業の優先
- ・他の活動とのバランスを考慮
- ・推進メンバーが多忙になった
- ・職員不足
- ・助成金で開設したサポートサイトの運用状況がある程度わかってから、次の展開を考えたい

「助成の申請手続き・精算が複雑すぎる。」と「助成制度が要望に合わない。」を理由とした団体が多かった。要望しなかった団体の中には、状況次第で再度応募したいと考えている団体があることもわかった。

#### 4) 助成活動の波及効果について

活動を継続している 7 団体において、助成活動の波及効果については、以下の通りであった。(表5)

表5 助成活動の波及効果について(複数回答可)

回答項目	対象団体数 7 件	
	件数	対象団体数に対する率
a. 助成活動を参考にして、他の団体でも類似の活動を実施するようになった。	2	28.6%
b. 助成活動を参考にして、類似の活動を行う団体が新たに設立された。	1	14.3%
c. 他の団体から問い合わせまたは説明依頼があった。	3	42.9%
d. 他団体等のネットワークが構築された。	2	28.6%
e. 行政の政策に具体的な提言をし実現させた。	3	42.9%
f. 法令や条例等の制定や改正に貢献した。	0	0.0%
g. 地域の環境保護(保全)システムづくりに貢献した。	2	28.6%
h. 環境保全や保護を目的とした施設づくりに貢献した。	1	14.3%
i. 活動への参加者が増えた。もしくは パンフレット等配布物の配布数が増えた。	3	42.9%
j. メディアに掲載された。	0	0.0%
k. 表彰を受けた。	0	0.0%
l. その他	3	42.9%
m. 特になし	0	0.0%

また、「その他」と回答した団体から、以下の通り具体的な回答が得られた。(複数回答可)

- ・団体や活動の認知度が高まった。(2 件)
- ・環境省とつながる大きな仕事の受注につながった。

助成活動の波及効果について、最も多い回答は以下の通りであった。

- ・「他の団体から問い合わせまたは説明依頼があった。」
- ・「行政の政策に具体的な提言をし実現させた。」
- ・「活動への参加者が増えた。もしくは パンフレット等配布物の配布数が増えた。」

#### 5) 地球環境基金に対する要望について

地球環境基金に対する要望についても、調査票を回収したすべての団体から回答が得られた。回答結果は以下の通りである。(表6)

表6 地球環境基金に対する要望について(複数回答可)

回答項目	対象団体数 7件	
	件数	対象団体数 に対する率
a. 事務作業を簡潔にしてほしい。(申請書類、報告書類)	2	28.6%
b. 事務作業を簡潔にしてほしい。(会計書類)	2	28.6%
c. 概算払いを認めてほしい。	2	28.6%
d. 同様の活動をしている他団体を紹介してほしい。	2	28.6%
e. 連携できそうな企業を紹介してほしい。	2	28.6%
f. 有給の役職員の人件費も認めてほしい。	2	28.6%
g. 会計をチェックする人を派遣してほしい。	0	.0%
h. その他	3	42.9%
i. 特になし	1	14.3%

また、「その他」と回答した団体から、以下の通り具体的な回答が得られた。(複数回答可)

- ・同様の活動をしている複数の他団体とのネットワーキング・交流する機会をつくってほしい
- ・報告書等が mac でも使える仕様にしてほしい
- ・支払申請用 Excel マクロファイルを使用するために、Microsoft Office の予算を認めてほしい

突出して多い要望はないが、事務作業の簡素化、他団体・企業の紹介と助成制度の一部見直しが望まれている。

#### まとめ

- ・平成 28 年度の入門助成団体の 56%が、本年度他の助成メニューで採択され次のステップに移行した。
- ・すべての調査対象団体が、助成を受けた活動を続けていることがわかった。
- ・要望しなかった理由では、「助成の申請手続き・精算が複雑すぎる」と「助成制度が要望に合わない。(助成金の用途制限等)」が多かったが、状況次第で再度応募したいと考えている団体もあった。
- ・地球環境基金に対して、事務作業の簡素化、他団体・企業の紹介と助成制度の一部見直しに関する要望があった。